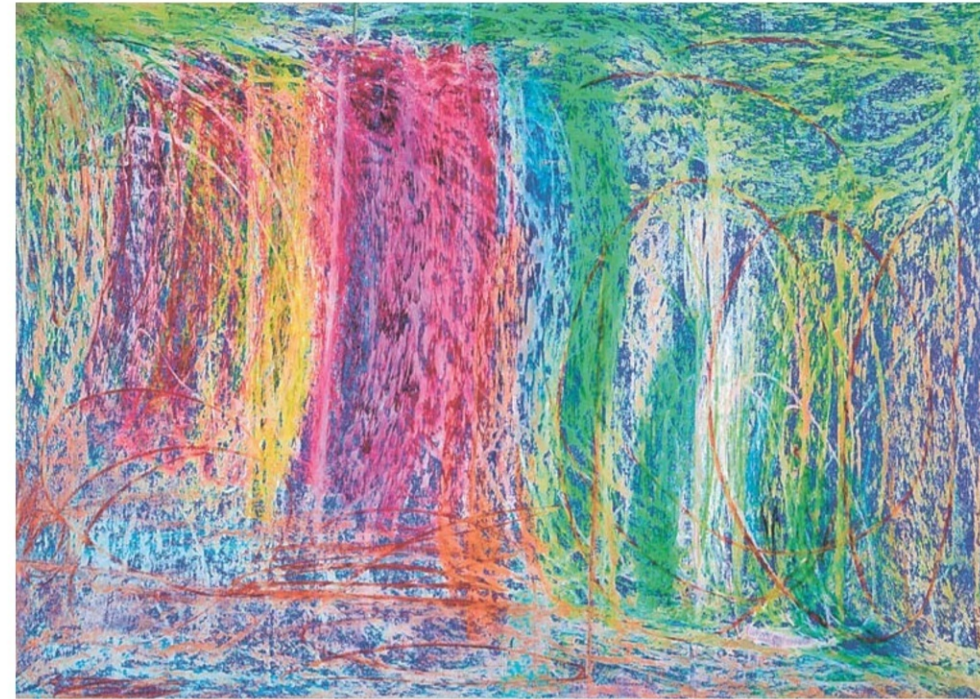


むき出しの 創造力



山川隆晟「あべのハルカス 東館」 2021年



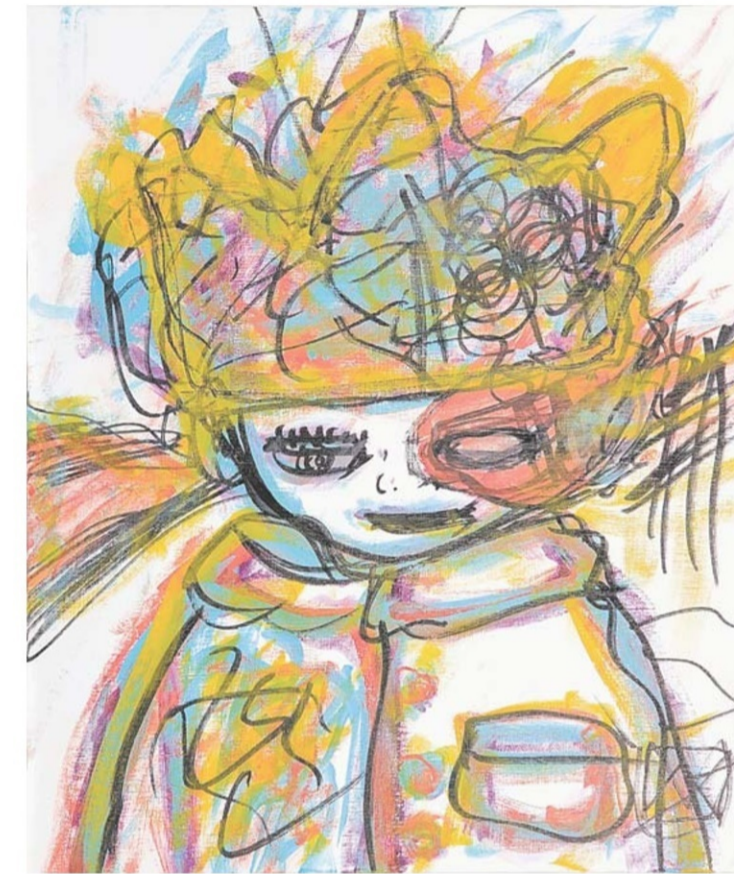
川崎誉大「無題」 2016年



石原寛子「無題」 2019年



高島晃平「シロフクロウ」 2017年



前田渉「Drive the vision」 2020年



「KOTA」無題 2021年

25日から北区で「天才アート展2021 オープン・スタジオ」



久保直己「自画像」 2018年

延々と続くモチーフ、強い線や色彩、とちやとち作ったのか気になるオアシエ。天才アートKYOTO (特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構) に所属する40人の力作150点以上を、今年5月に移転オープンした京都市北区のアトリエで見せる展覧会が25日から始まる。力あふれる創作の源泉が見られる。同機構は01年に設立。障害のある人、社会と

これまで堀川御池ギャラリー(中京区)などで展示し「他に見ないかな」と評価を得てきた。教えられたわけではないのに突然生まれる天才アート。作家の制作風景を見せる予定もあり、驚きの創造力に触れることが期待された。

(林屋祐子)



展覧会タイトルデザイン 知原諒汰



小学校の教室を活用したアトリエが複数あり所属作家たちは毎週月・木曜の自由な時間に訪れて制作する。展覧会もこれらのアトリエで行う(京都市北区・天才アートKYOTO)

ついていた人が、ある日突然全てを融合したような作品を作り出す」という。山川隆晟さんの「あべのハルカス 東館」は作品の半分が大阪、残り半分が京都と奈良を描く。石原寛子さんの「無題」は長く引き出した透明テープを腕などに貼り、皮膚の表面を転写した上で巻いて立てたものの集合体だ。石原さんが楽しさを感じ、その蓄積が作品化したといえる。

会期 9月25日(土)～10月10日(日) 火曜休館
開館時間 午前11時～午後6時(10月1日は「ニュー・プラン シュKYOTO2021」開催のため午後9時まで)
会場 天才アートKYOTOきたアトリエ (京都市北区紫野西舟岡町 元楽只小 ふれあい共生館)
主催 特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構、京都新聞
共催 京都市、京都市教育委員会
問い合わせ 天才アートKYOTO 075(334)5180